



日本切手の国名表記には、①無表記、②大日本帝国郵便、③日本郵便の3つのパターンがあります。①無表記は手彫切手、③日本郵便はだいたい戦後から現代、そして概ね戦前は②大日本帝国郵便ということが出来ます。

しかし、戦前でも③日本郵便が使われた時期があったことはあまり意識されていないようです。記念切手では1915年の「大正大礼」から1930年の「明治神宮鎮座10年」まで、普通切手の類では1923年の「震災切手」から1929年の「芦ノ湖航空」までの切手が③日本郵便の表記です。（1920年の「第1回国勢調査」と「明治神宮鎮座」は例外的に②大日本帝国郵便です）

なぜ戦前において、②大日本帝国郵便ではなく、③日本郵便が使われた時期があったのでしょうか。当時の世相を背景とした大正デモクラシーと関係があるのか、あるいは、小判はがきでは「大日本郵便」となっているように、国名表記にそれほど強い規範意識はなかったのかもしれませんが。菊紋章と合わせて国名の表記の変遷をたどるのも一興かと思います。

（記：藤岡 靖朝〈日本郵楽会会員〉）